

大和市立図書館・調布市立図書館 サービス・資料費の推移 比較表

年度	大 和 市										調 布 市									
	奉仕人口	図書館数	図書館費	資料費総計(予算)	貸出点数	1人当貸出点数	予約件数	職員			奉仕人口	図書館数	図書館費	資料費総計(予算)	貸出点数	1人当貸出点数	予約件数	職員		
	千	1. 1 現	千円	千円	千点	点	千件	専任計	内司書・補(司書率%)	非常勤・臨時(委託)	千	1. 1 現	千円	千円	千点	点	千件	専任計	内司書・補(司書率%)	非常勤・臨時(委託)
1995	198	5	131030	35,393	692	3.4	—	20(12)	8(1) (40)	10	191	11	478,625	248,615	1,214	6.3	—	55	46 (84)	28
2000	208	1	104,160	35,826	748	3.6	—	15	6 (40)	2	195	11	576,357	126,022	1,882	9.7	—	56	44 (79)	58.7
2005	216	1	130,441	36,916	834	5.5	65.5	14	7 (50)	2(5)	205	11	567,159	115,690	2,603	12.7	174.0	56(1)	45 (80)	115
2010	221	1	163,129	37,186	1,402	6.3	157.5	6	3 (50)	(22)	216	11	493,478	96,397	2,949	13.7	226.0	60	42 (70)	99
2015	233	1	203,461	60,627	1,060	4.5	170.7	7	3 (43)	(31)	224	11	531,648	91,159	2,651	11.8	664.4	66	47 (71)	113
2016	234	1	236,848	35,473	1,333	5.7	175.5	6(1)	2 (33)	—	224	11	473,578	91,111	2,625	11.7	666.9	64	46 (72)	104
2017	235	1	264,931	43,060	1,707	7.3	217.8	—	—	(56)	226	11	504,253	91,159	2,581	11.4	652.3	65	47 (72)	112
2018	235	3	522,699	43,214	1,269	5.4	223.1	—	—	(78)	230	11	485,510	91,571	2,574	11.2	645.9	64	47 (73)	114

2020.2.29 改定版

- 1:『日本の図書館』(日本図書館協会編集・刊)の各年版より作成
- 2:大和市の図書館数は2000年度から2017年度までは、大和市図書館1、サービスポイント4という記載となり、『日本の図書館』には分館記載がなくなる。2018年度には大和中央林間と渋谷分館が記載された。運営はいずれも指定管理TRCの運営。 大和市は2016.4に今の図書館を建設。11.3オープン同時に指定管理に切り替えた。大和市図書館は中央館的位置づけ。
- 3:1995年度の貸出の692千は点数ではなく冊数。以降、点数でカウントすることになった。 1人当り貸出点数は総貸出点数を人口で除した。貸出密度と呼ばれ、サービス指標の基礎的な数値である。なお、大和は入館者年間300万人達成と宣伝しているが、入館者はあくまで建物の出入りの数であり、サービス指標としては的確ではない。図書館にとってはどれだけ資料を使ってもらっているかが評価の第一の指標である。 因みに2018年度の大和市の貸出総数は1, 269千点 調布は2. 574千点。 2, 574千点が利用されている。そのことの方が市民の知的水準を頭わす一つとしてふさわしいのではないか？
- 4:図書館費、資料費の額はいずれも予算額。 図書館費は一般会計の1%が望ましいといわれている。
- 5:職員のうち専任は正規の職員。()の数は図書館だけでなく別の仕事をする兼任職員の数。非常勤・臨時職員:非常勤職員は6ヶ月以上の雇用で、一般的に知識を必要とする場合等に募集する。自治体によっては実質、1年以上継続されることがある。臨時職員は正規職員が一時的に欠けた場合や特別な臨時的な仕事を短期の契約で結ぶこと。非常勤と臨時職員合わせた人数になっている、人数は年間1,500時間で換算して積算
- 6:非常勤・臨時職員のうち(委託数)は指定管理、PFIなどの委託先企業の職員数。2005年の()の数字は外数。委託先の司書の雇用状況はこの統計ではあらわしていない。司書採用が多いといわれているが、実態は不明。非常勤・臨時職員が多いことが指摘されている。
- 7:正規の職員数のうち司書の割合が70%,80%ある図書館では、貸出密度(市民1人当貸出件数)も高い。川崎市は全体で50%前後。司書制度がなく司書資格保有者の異動で維持している。喫緊の課題 司書の仕事の内、資料の選書がある。つまり資料の目利きを養うこと。それには日々の研鑽と経験の積み重ねが欠かせない。
- 8:大和市は2005年度に、すでに窓口の委託を導入した。年々増加し最終指定管理導入となった。一部窓口の委託は図書館のサービスに変質をもたらした。書架の案内さえもできない委託職員の対応に、川崎市民からは戸惑いの声もきかれる。一方、調布市は正規職員の大幅な減はなく、非常勤・臨時は多いが直営を堅持している。